

令和2年度 「市長と語る まちづくり」 懇談会 次 第

1. 開会

2. 懇談

テーマ

若者の定住・UJIターンの促進

～周南市を魅力あるまちにするには～

参加団体（7団体）

- ・ 富田東地区まちづくり協議会
（富田東地区のまちづくり活動を促進する団体）
- ・ 富田西地区コミュニティ推進協議会
（富田西地区のコミュニティ活動を促進する団体）
- ・ ”ほっと三丘” コミュニティ協議会
（三丘地区のコミュニティ活動を推進する団体）
- ・ Meets ～山口県周南市若手農業者グループ～
（農業者の定着と地域の活性化を目的に活動する団体）
- ・ 周南市成人式実行委員会
（周南市の成人式を企画・運営する団体）
- ・ 徳山大学 地域共創センター
（大学において、産官学や地域などと連携を行う団体）
- ・ 山口県建築士会 徳山支部
（建築士の職能を生かしたまちづくり活動等を行う団体）

3. 閉会

No	団体名	提 言 内 容
1	富田東地区まちづくり協議会	(1) 若者が輝き、住んでみたい夢のあるまちづくりの創出 ①市と学校が連携し高校生ボランティア支援・地域活動への参加を促す。(ボランティアリストを作る) ②高卒・大卒の組織化と地域活動の推進(卒業後～子供が小学校入学までの大人が地域で空白になっている⇒青年団・クラブ等の組織を再生する) ③先ず大手企業の若者を対象に、地域参画した場合の特例措置をお願いする。(特休制度) ④中高生及び高卒・大卒の若者による、まちのビジョンを検討させる。
		(2) 企業誘致や欲しい人材を教育する場を作る ①コロナ禍で本社・研究機能を地方へ移す企業の情報を一早くキャッチし誘致する。 ②大学と地元大手企業が連携し、企業が欲しい人材の学科と技術レベルの向上を図る。
		(3) バランス良い予算配分による地域の活性化及び若者の活躍の場を創出する ①中央集中から地域分散へ(各地域の活性化が若者の活躍の場を作る) ②旧新南陽の再開発⇒旧新南陽のシンボルだった夢風車周辺をもっと魅力あるものにする。(若者・小中高生に考えさせる) ③新南陽ロータリー周りでのイベント企画(地域の若者に企画・運営させる)
2	富田西地区協議会	(1) 富田地区には、大口の雇用を担う企業があり、社宅や寮の充実、宅地造成も行われ、周辺部で見られるような人口減少は極端には見られず、生活する環境はある程度整っているが、生活が多様化してきており、地域の繋がりや地域での文化的な行事は弱い。 最近の車社会において、イベントや商業地への移動手段は車なので、駐車場の有無が重要となっている。大きなイベントも良いが、地域で協力し、慣例行事や既存の事業の継続・充実、地域の特色を生かした地域住民参加型の行事やイベントを計画し、地元企業と協力(賛助・共催)して行っていきたい。地域参加型で取り組むことで地域への愛着が生まれ、地域への定住へ繋がる。 そのために、地域でイベントなどを取り組みやすい環境づくりが必要だと思う。
3	「ほつと三丘」コミュニティ協議会	(1) ①空き家移住実現のために、地域ぐるみで「三丘に来てよかった・来てもらって良かった」と思えるような下記体制づくりを行った。 (一)空き家のデータベース化及び、「相談(候補の家をピックアップ)→見学(複数回)→入居決定→清掃・片づけ→契約・入居→フォローアップ」という流れのマニュアル化を行った。 (二)地域ぐるみでのサポート体制 移住相談、見学、入居前の片付け・清掃、小学校体験入学、歓迎会等を地域・自治会で実施することで、所有者・移住者双方の負担を減らし、移住が実現しやすい環境を整える。 (三)今後について 空き家の定期的な点検や草刈りなど、地域自らが空き家を管理する仕組みづくりの検討や環境整備により、入居可能な空き家を確保する方針。将来的には、空き家管理会社の設立を目指している。
		(2) ②空き家を活用した移住支援制度の要件見直し 空き家改修支援事業補助金の補助対象者要件にある「市内に住所を有していない、または市内に住所を有してから6ヶ月を経過していない人」の項目について、緩和するべきである。他市町村の補助金と比較して要件が厳しい。
		(3) ③農地の権利移転に関して、耕作する下限面積の緩和 移住による空き家取得とセットで農地を取得する場合に限って、下限面積要件を緩和するべきである。 (例：30アール→1平方メートル)

No	団体名	提言内容
4	山口県周南市Meets若手農業者グループ	(1) 周南市は既に「魅力あるまち」として再認識するべし！新型コロナウイルスの感染拡大を機に世界中でテレワークが普及しました。日本全体では田園回帰の機運の高まりや、副業として農業をする人が増えました。海拔0メートルの島から1000メートル以上の山まで多様性のある周南市には、都市から地方に移住したい人にマッチングする場所が高確率であると思います。よって遊休農地や空き家を一括管理して情報を提供すれば、若者が地方に移り住みやすくなります。
		(2) 新型コロナウイルスの流行のもとで、農作業の体験イベントや市民農園がかつてないほど盛り上がっているようです。Youtubeのブームのように、「消費の時代」からDIY等の「体験の時代」に変化したのだと思います。地方や田舎には昔から「お祭り」があります。昭和の時代まで、お祭りは田舎では最大の娯楽であったのです。これからは出店でモノを買う「消費するお祭り」から、神輿を自分たちで担ぐ「体験するお祭り」に変わっていきます。よって体験できる場所を増やしたり、情報を提供すれば若者は地方に移り住みたくになります。
		(3) 周南市は最近10年間、山口県の中で一番新規の就農者が多い市です。それは都市部と農村部のバランスがいいことも影響しています。私たちMeetsは2月に駅前のマルシェに参加しています。駅前の商店街は都市部と農村部を繋ぐ、地産地消のフラッグシップになるからです。駅前、駅近にポータルサイトとしての役割と機能を持たせ周南市の情報発信、情報発見の場を整備すると、移住希望者は周南市のお気に入りの場所を発見しやすくなります。よって毎週末、歩行者天国を実施しソレーネ周南等の移動販売車を使って地産地消の委託販売マルシェを開催すると活気付きます。
5	周南市成人式実行委員会	(1) 中学生、高校生及び大学生に、授業や学内の講演会を通して周南市での子育てや働き方、老後の生活に関する情報を定期的に与える必要があると思う。中学校、高校、大学で学生生活を送る中で、周南市のそういった情報に触れる機会が少ない。もちろん周南市役所や周南市内の企業、団体のホームページ等を見れば情報は手に入るが、学生が自ら調べに行くことはなかなか無い。学生のうちから周南市で暮らすビジョンを強く描いてもらうことで、定住化の促進を図ることが出来ると考えている。
		(2) 周南市文化会館にて若者向けのバンド演奏・歌唱大会を開催することを提案する。市内、市外含めバンドを組んでいる若者、その他、音楽が大好きな若者は数多く存在しており、彼らの気を引くことができる。そして参加費の一部を周南市内の飲食店及び施設のクーポン券に変えて返す仕組みにすることで、周南市の良さを知ってもらうきっかけづくりにつながる。この取り組みにより周南市を訪れる人が増え、関係人口の増加を図ることもできると思う。
6	徳山大学地域共創センター	(1) ①世代間を越えた周南企業懇談会 コロナ禍中で第3波が懸念される中、都心部をはじめ採用実績が昨年に比べて下がっています。地方都市に目を向ける大手企業や若者が増えてきている中、この流れをチャンスに置き換えて世代間を越えて周南市で就職懇談会を実施します。ただ、リクルート会社と同様のものを開催しても集客と魅力に欠けるため、遠方や外出自粛のニーズに応えるWEB開催と並行して、イベント（料飲組合と連携して屋台や弁当販売など）として地域の方が集える企画を考えます。周南市、山口県内外が目を向ける周南市の魅力発信可能な最大の機会です。
		(2) ②フリーランスの住みやすい街 現在フリーランスとして新たな働き方文化が若者に定着しています。周南市において移住おためし農業が実施されているように、新たな取組として「おためしハタラク移住」を企画します。周南市の循環（人・お金・情報）が充実、特に働き方としてSNS発信が多いため全国へ情報発信が充実し、フリーランスとしての移住から定職・起業も発展として考えることが出来ます。取組としてはまず以下の2点から提案します。 (一)空き家バンクを改装活用したコワーキングスペース運営、シェアハウス運営など (二)山口県としての取組みとは、別立の移住支援
7	山口県徳山支部建築士会	(1) 周南市の個性を明確にした上で、移住者が起業したくなるまちの受け皿と住んでみたいと思ってもらえる環境の整備を行うこと。また、それに関連して、既存コミュニティとのきめ細かい橋渡しや息の長い人的支援。
		(2) Wi-Fiなど、地方でも都会と容易につながってストレスなく仕事ができたり、全国へ情報発信がしやすい通信環境の整備。
		(3) （長期的な取組みという前提で）将来の愛着（帰属意識）につながるよう、このまちで育った子供たちが誇りに思えるような、周南らしさを明確にしたまちへの再生。移住した人が住みやすさを実感できるような周南市の「売り」を育てる。
		(4) 空き家等の有効利用を積極的にすすめる。